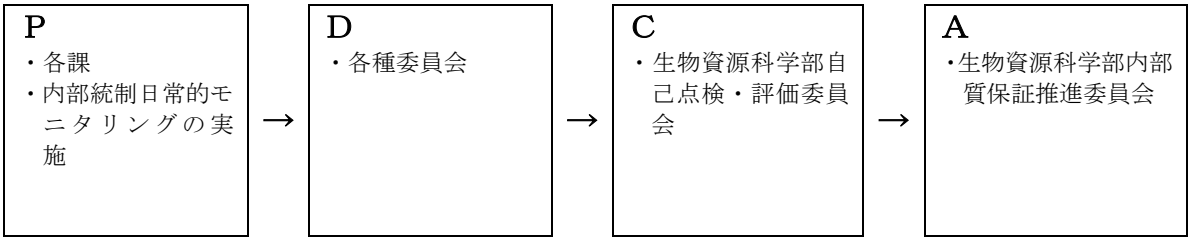
令和７年度全学自己点検・評価報告書

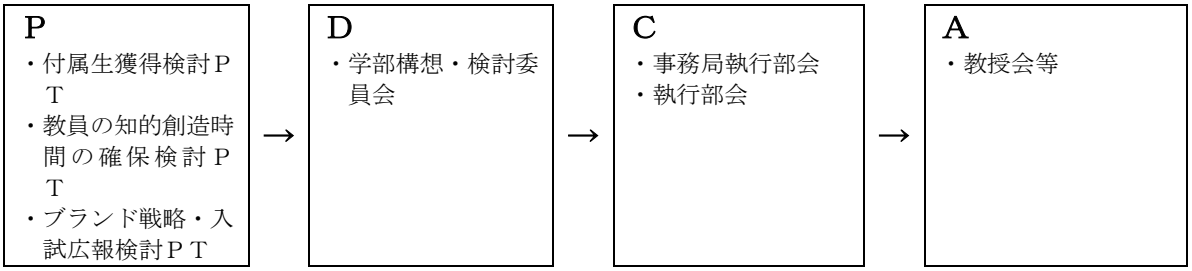
学部等名　　生物資源科学部

基準２ 内部質保証

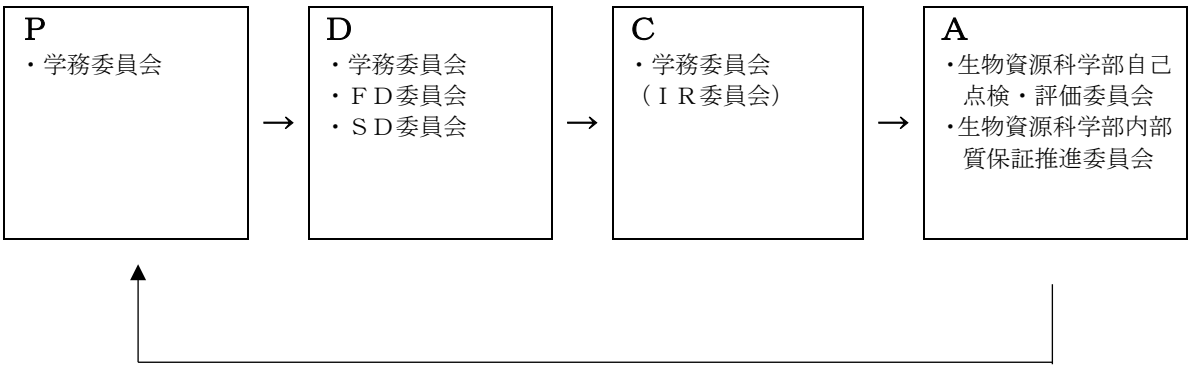
１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。

【庶務】





【教務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等につ

いて記述してください。

【庶務】

点検・評価については，生物資源科学部内部質保証推進委員会の下，ＩＲ委員会，ＦＤ委員会，ＳＤ委員会及び生物資源科学部自己点検・評価委員会等が生物資源科学部内部質保証推進委員会と連携することで，各研修でのテーマを提供する等して内部質保証体制を構築している。

改善・向上を図った事例としては，内部統制の日常的モニタリング「推進単位内項目／全課共通項目（教務課）」にもあるとおり，教育の質を保証する仕組みの一環であるＦＤ研修において毎年講演内容を変更することで全教職員の 100%受講を達成した。

内部質保証については，現状，各課のＰＤＣＡサイクルに全体的な統一性が見られないことから，内部質保証体制をより盤石なものとするため，各課及び各種委員会等の役割及びＰＤＣＡサイクルの本質を再検証しながら，課題となる点を抽出し，生物資源科学部内部質保証推進委員会において今後検討及び改善していく予定である。

【教務】

＜点検・評価（検討・検証）＞

内部質保証システムは，生物資源科学部内部質保証推進委員会の下，学務委員会，生物資源科学部自己点検・評価委員会，ＩＲ委員会及びＦＤ・ＳＤ委員会等が連携し，体制を構築している。本学部では，教育実務を統括する学務委員会がＰＤＣＡサイクルの実働主体となり，現場の課題に即応した改善活動を展開している。

具体的な運用は，学務委員会が中心となり教育改善計画を策定（Ｐ）し，必要に応じてＦＤ・ＳＤ委員会と連携して施策を実行（Ｄ）する。その後，学務委員会が教学情報を基に点検・分析（Ｃ）を行い，必要に応じてＩＲ委員会と連携して結果を補完する。これらの検証結果は，生物資源科学部内部質保証推進委員会へ自己点検結果と併せて報告（Ａ）される。同委員会が最終的な検証・承認を行うことで，組織的な質保証サイクルを完結させている。また，教務部門の改善活動は，実務を担う教務課による起案と学務委員会での審議・決定を密接に連携させることで，実効性を担保している。

＜改善・向上を図った事例＞

点検，評価の結果に基づく改善，向上事例として，以下の施策を実施した。

・原則，全開講科目の「授業評価アンケート」と「卒業時調査（旧学修満足度向上調査）」による学内評価を毎年実施している。
・外部機関（株式会社井出トマト農園，株式会社マルホ，株式会社シンテック及び新規に中央畜産会）と連携協力協定を締結し，「三つの方針」に対する客観的な評価を依頼し，教育活動の改善に活用している。
・成績評価の公正性の向上として，卒業研究の成績評価基準について，学部全体で統一したルーブリックのガイドラインを策定の上，導入した。
・学修支援の強化として，授業評価アンケートを教学システムによる実施に変更し，回答率の向上を図った。
・成績不振者への修学指導基準にＧＰＡを含めるなど，広範囲の学生を対象とすることで学習継続支援の質的向上を図った。

これら教務部門における改善活動は，実務を担う教務課が教学上の課題を自発的に抽出・起案し，教員組織である学務委員会との協議・決定を経て実行される体制を基本としている。具体的には，学務委員会を主軸として改善施策の方針を決定し，教務課が実務的な実施・運用を担った後，再び学務委員会においてその実施結果の検証と承認を受けるというサイクルを構築している。一連の組織間連携による改善実績は，年１回，生物資源科学部内部質保証推進委員会へ報告することで，組織的な内部質保証を完結させている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，基準４の概評で「学習成果の測定・把握について，アセスメント・テストによる一部能力の測定にとどまっており，学位授与方針に示す学習成果の評価として不十分である」と指摘されている。基準２は基準４と相互に関係するため，学位授与方針に示された学習成果を多面的に把握できるよう測定方法の多様化を図る必要がある。この点については，例えば，生物資源科学部内部質保証推進委員会が主導して検討・改善を進めるよう，改善が求められる。

【教務】

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示される「自主創造」等の８つの能力（コンピテンシー）の達成度を測るため，先行的に「卒業研究（Ⅰ・Ⅱ）成績評価基準のガイドライン及びルーブリック活用モデル」を策定・導入した。このルーブリックは，最終成果物だけではなく，課題設定から問題解決に至る「研究の過程（プロセス）」を重視して評価するものとなる。

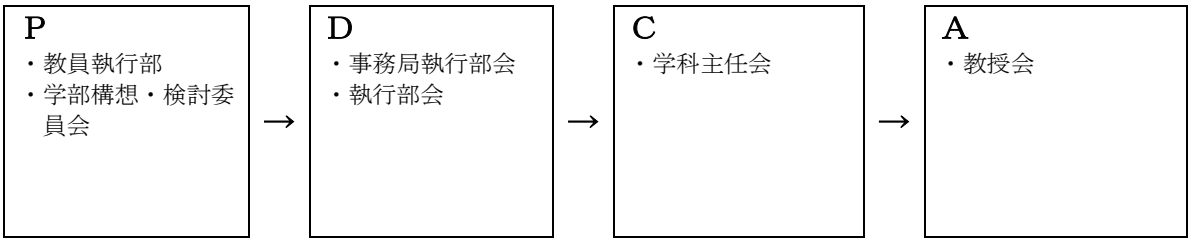
今後は，全学的なアセスメント・プランが決定されしだい，学部及び研究科ごとのアセスメント・プランを速やかに策定し，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した学習成果の測定に当たって，卒業研究ルーブリックを主軸として適切に運用できるよう検討する。

本ガイドライン及びルーブリックの策定に当たっては，実務を担う教務課が各学科の評価実態を調査・集約し，その結果に基づき学務委員会において教学上の観点から審議・決定を行った。今後の運用については，学務委員会において策定した実施計画（Ｐ）に基づき，各学科及び指導教員がルーブリック評価を実践（Ｄ）する。その評価結果については，学務委員会が点検・分析（Ｃ）を行い，必要に応じて再度，有効性を検証する。一連の改善案は，生物資源科学部自己点検・評価委員会及び生物資源科学部内部質保証推進委員会へ報告（Ａ）し，組織的な承認を得ることで，アセスメント・プランの高度化に向けたサイクルを継続的に運用していく。

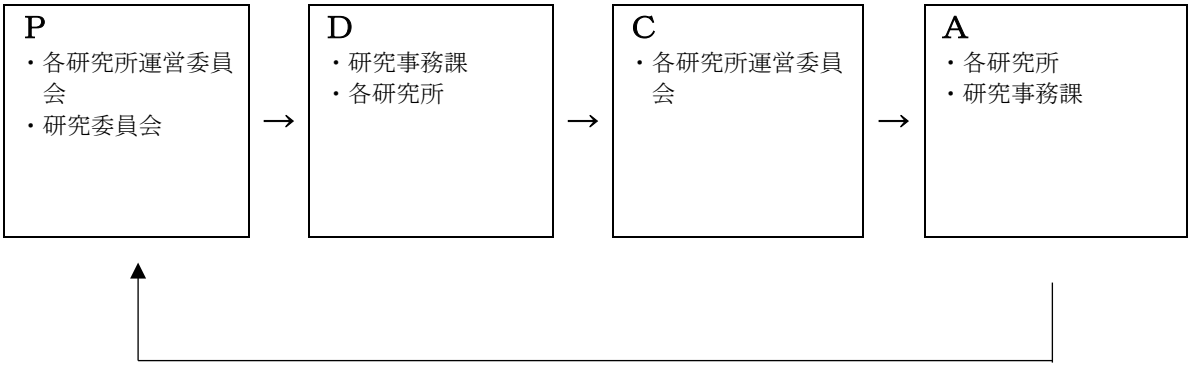
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【庶務】



【研究事務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【庶務】

教育組織については，大学設置基準やＳＴ比の標準化を踏まえた上で，教員執行部及び学部構想・検討委員会が中心となり，学部の今後のカリキュラム編成や組織再編に向けてのプロセスを検討している。

【研究事務】

各研究所等では，学部研究委員会を中心として研究組織の適切性を検証するとともに，日々の業務については各研究所等の運営委員会で点検・検証に取り組んでいる。 各研究所等の運営

委員会による点検・検証の結果を基に大型機器の購入，保守，点検及び修繕等の計画を検討している。総合研究所では，機器のニーズや点検結果等を基に，毎年大型機器の更新・導入に係るロードマップ（中期計画）を見直し，研究所運営委員会及び研究委員会の承認を得て予算化し，研究環境の改善を行っている。

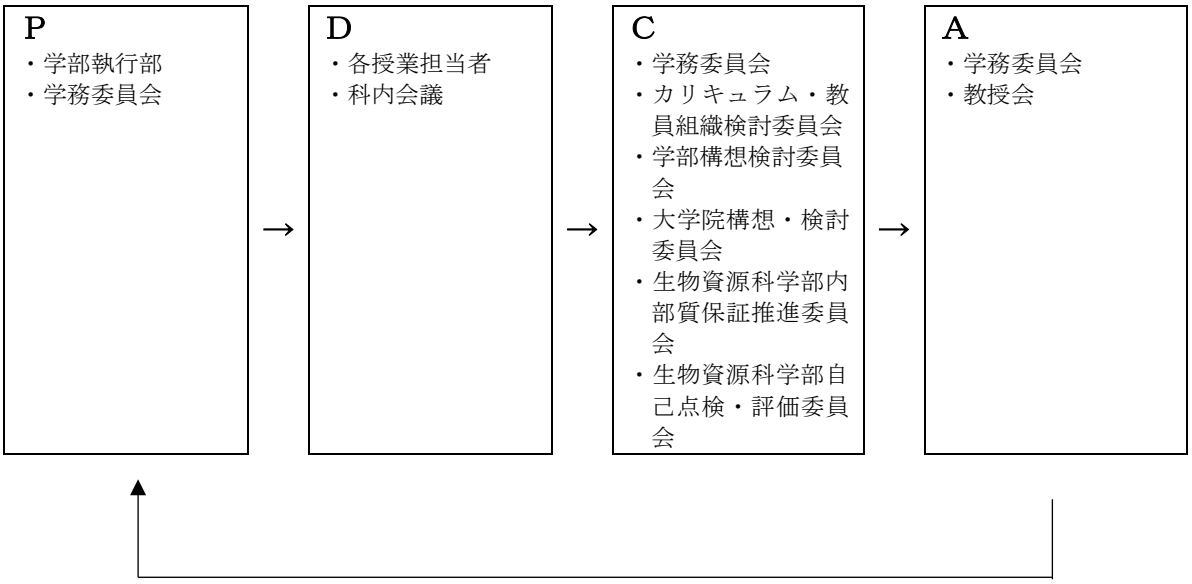
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

【教務】

＜基準・周期＞

教育課程及び教育方法に関する点検・評価は，教育方法については毎年度，教育課程については完成年度を考慮したおおむね７年周期で実施する（令和５年改正済み，令和 10 年度～令和 11 年度改正を検討中）。基準は特に設けていない。

＜体制・プロセス＞

体制は，執行部，学務委員会及びカリキュラム・教員組織検討委員会，学部構想検討委員会，大学院構想・検討委員会の各種検討委員会が中心となりＰＤＣＡを主導する。生物資源科学部内部質保証推進委員会へは，毎年の自己点検結果等の状況報告を行うことで連関する。

＜方法＞

原則全科目で授業評価アンケートを年２回実施し，その結果に基づき各教員が日々の授業改善に努める。

令和５年度の改組後の検証として，執行部，学務委員会及びカリキュラム・教員組織検討委員会等の各種委員会を設置し，検討を開始した（P）。この方針に基づき，教育現場である各学科等において教育を実践（D）している。今後の就職状況や学習成果状況に基づき，基礎科目の配置バランスや専門科目の接続性における問題点を学務委員会が洗い出し・検証（C）し，これらの検討結果を学務委員会及び教授会へ報告・承認（A）することで，令和 10 年度以降の新カリキュラムへの反映に向けた組織的な検討を行っている。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【教務】

＜活用と改善事例＞

教育方法の改善においては，原則全科目で毎年度実施する授業評価アンケートの結果を各教員にフィードバックし，各教員が教育方法の改善点を示した上で次年度の講義に反映させることで，日々の教育の質向上に活用している。

教育課程の改善においては，本部主催の報告会を通じて共有される GPS-Academic（外部業者分析）の結果を，執行部，ＩＲ委員会委員及び学科主任間で教学施策検討の参考情報として共有している。また，卒業時調査の結果は学部ホームページで広く情報提供されており，学科での分析用資料として要望があった際は，情報提供もしている。

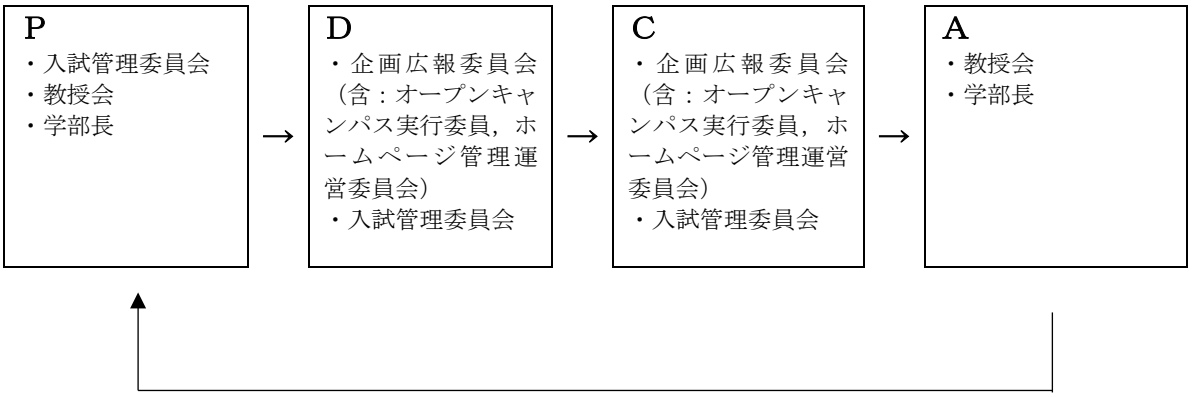
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【教務】

＜点検・評価（検証）のプロセス＞

学生の受け入れに関わる事項の検証は，入試管理委員会が主導する。委員会は，前年度の受験者数・入学者数等の動向や大手進学塾の分析結果を参照し，現状把握と入学者選抜制度の適合性を分析する。この検証結果に基づき，教授会の審議を経て学部長が次年度の制度改定を決定する。

＜改善・向上を図った事例＞

・広報活動の強化として，企画広報委員会は，検証結果を反映し，オープンキャンパスにおいて学生目線での情報発信を強化した。

・学生スタッフの増強など，イベントの工夫を企図した結果，アンケートでは多数の高評価・感想を獲得し，次回の参加者数増に寄与している。

・入試情報の発信として，入試制度の見直しに伴い，年内入試募集枠の増加に対応するため，総合型選抜・学校推薦型選抜の解説を手厚く実施している。

・総合型選抜の「合格体験記」動画を制作し，受験生への積極的な情報発信を図った。

＜今後の対応＞

現在の体制では，生物資源科学部内部質保証推進委員会との連関が不明瞭であるとの指摘があるため，今後，入試管理委員会での検証結果を同委員会へ定期的に報告する体制の構築を図る。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

収容定員に対する在籍学生数比率について，生物環境工学科で 0.87 と低いため，定員管理を徹底するよう改善が求められる。

【教務課】

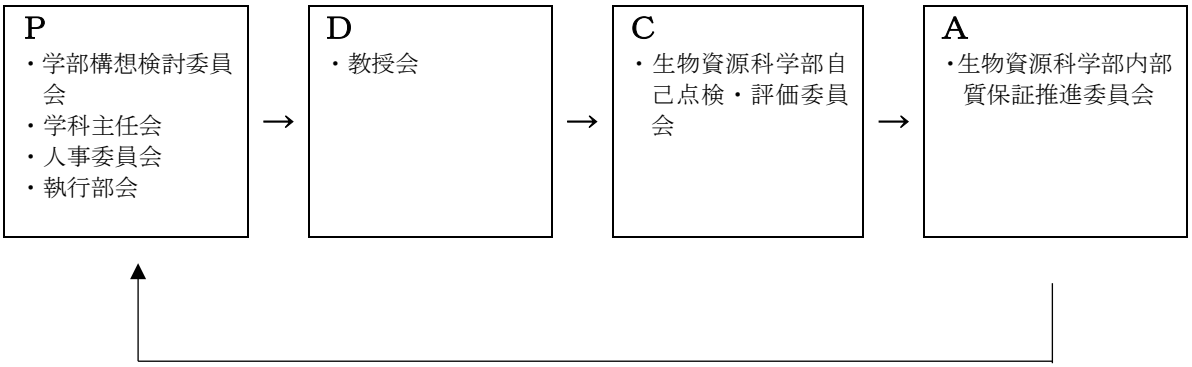
生物環境工学科が旧カリキュラムの最終学年（令和７年度４年次）のみが在籍する状況にあることを踏まえ，入試による定員充足は行わない。本課題への対応は，学科が廃止されるまでの間，在籍学生の維持管理をする。

なお，令和５年度の学部改組において，旧学科となる生物環境工学科の募集停止と，新学科への定員移行を策定（Ｐ）し，計画どおり募集停止を実行（Ｄ）した。充足率 0.87 という数値については，募集停止に伴う年次進行上の推移として，入試管理委員会において状況把握（Ｃ）している。これらは，卒業判定結果を教授会でも報告（Ａ）されており，本事案が計画的な定員移行に伴う一時的な数値であることを組織的に共有・確認した上で，廃止までの間は在籍学生の修学支援を継続して行うことを決定している。

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【庶務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【庶務】

教員の配置については，これまで「大学等の教員配置計画策定に係る基本方針について」及び「教員配置及び教員配置数の上限」を基に，人事委員会にて点検・評価を行ってきたが，人事委員会での協議により，各学科のＳＴ比率（学生数と教員数の比率）を判断基準の一つとして加えることとなり，令和８年度教員の採用人数及び学科配置数に反映される予定である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

記述上は教職の役割分担と責任の所在が理念的に示されているものの，実際の運用における具体的な成果や改善事例の提示が乏しい点が課題であり，改善が求められる。年齢構成の偏りに対する対応として，具体的な年齢分布の分析や定期的な点検・評価の実施状況，年齢構成に関する中長期的な人事戦略の明文化等については記述が確認できず，今後の改善が求められる。現時点での男女比の具体的な数値や今後の是正に向けた数値目標，又は具体的な改善策につい

ての記述が確認できなかったため，実効性のある多様性確保の取組が行われているかどうかの確認が困難であり，改善が求められる。

【庶務】

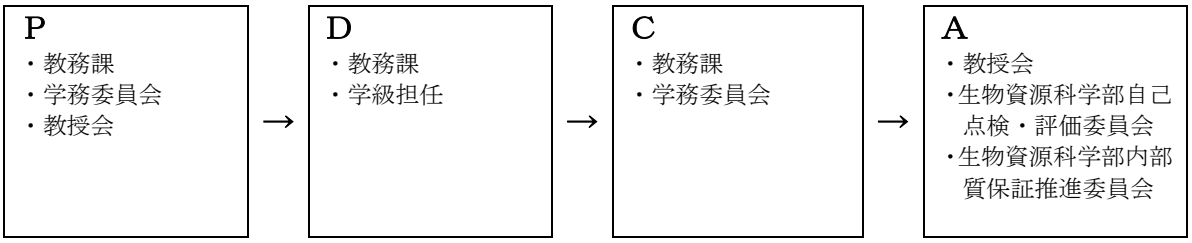
年齢構成の偏りに対する対応の一つとして，学部構想検討委員会からの提言を受け，令和９年度から令和 12 年度までの教員配置計画において若手教員採用促進を考慮することとした。

学部構想・検討委員会から人事委員会へ教員配置等に関する課題についての提言を受け，人事委員会で基本的な方向性を協議した。人事委員会での協議内容に基づき，学科主任会に対して依頼を行い，学科主任からの申請を人事委員会及び執行部会で内容を精査の上，協議した。その後，教授会での審議を経て決定した。

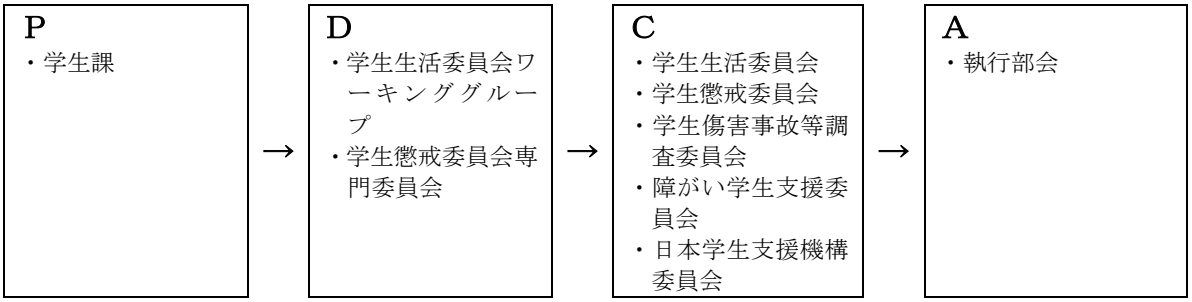
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

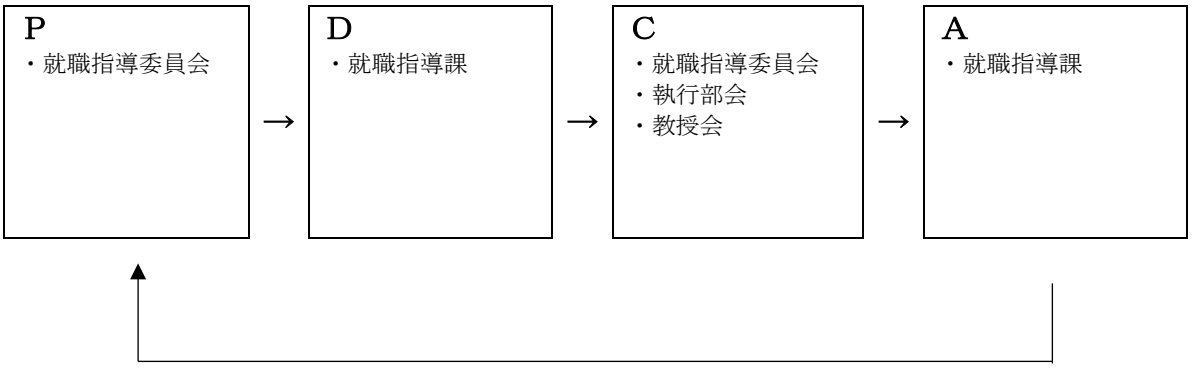
【教務】



【学生】



【就職指導】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【教務】

＜点検・評価（検証）のプロセス＞

学級担任や指導教員は，留年者・休学者に対し面談シートや対応記録を作成し，教職員間で共有することで，指導の適切性を検証している。検証による改善案は，教授会の審議を経て，次期方針に反映させる。

具体的には，実務を担う教務課が課題を抽出し，学務委員会及び教授会において承認された基本方針（P）に基づき，教務課及び学級担任が個別の面談や復学支援を実践（D）している。これらの活動状況については，教務課が面談シート等の記録を整理・集計し，それを受けて学務委員会が実務レベルでの評価（C）を行うことで，支援の適切性を検証している。その結果は，教授会及び生物資源科学部自己点検・評価委員会・生物資源科学部内部質保証推進委員会へ報告・承認（A）される体制を構築している。この一連のサイクルを通じて，現場の支援実績が組織的な承認を得るとともに，次期の学生支援方針や学級担任制度の改善へと確実につなげられる仕組みとなっている。

＜改善・向上を図った事例＞

学習継続支援の強化としては，留年・休学学生の指導に関し，年度末に当該年度の学級担任が面談シートに所見を記載し，新年度の担任へ指導方針の引継ぎを実施する仕組みが構築されている。また，休学者に対しては，指導教員が復学から卒業までのロードマップを作成し，教職員が連携して復学支援を行う体制を整えている。

なお，今後の検討案としては，ＧＰＡによる修学指導の方法や学級担任制度の見直しについても検討し，改善を図る予定である。

＜今後の対応＞

学生支援に関わる点検・評価について，生物資源科学部内部質保証推進委員会との連関が不明瞭であるとの指摘がある。今後は，学務委員会での検証結果を同委員会へ報告する体制の構築を図る。

【学生】

学生担当を学生生活に関わる支援検討する委員会の長として任命し，学生生活委員会，学生懲戒委員会専門委員会，学生傷害事故等調査委員会，障がい学生支援委員会，奨学生選考委員会及び日本学生支援機構委員会を設置し，各支援の検討や情報共有を行っている。

また，各委員会では，学生生活に係る事案について検討を行っている。学生生活委員会では，日々起こる学生生活に関する事案を調査・検討している。学生懲戒委員会専門委員会では，学生の本分に反する行為を行った学生に対して教育的な指導含めた処分案などを検討している。学生傷害事故等調査委員会では，正課・課外活動などで起きた事故などの内容に関して精査・検証し再発防止を含めた対策などを検討している。奨学生選考委員会や日本学生支援機構委員会では，奨学金に関する申請・推薦などを報告・協議・審議し，手続が正しく行われているか確認を行っている。障がい学生支援委員会では，月曜日から金曜日までの週５日，本部派遣カウンセラーと学部採用の臨床心理士を毎日２名体制で配置し，増加傾向にある学生相談に対応している。また，学生支援室の他に独立した障がい学生支援窓口を設け，社会福祉士の有資格者や日本大学インテーカーの資格取得者をコーディネーターとして配置し，障がい学生支援業務に当たっており，随時，学生からの相談を傾聴し，教員と連携を図り，可能な配慮を模索している。

また，令和７年度日本大学インテーカーの資格研修に当該資格未取得の専任職員３名が参加し，全学生課員がインテーカー資格を取得し，学生相談の業務に当たっている。また，相談で得た内容を学生課内で共有整理し，しかるべき委員会内に議題提案し，学生生活環境整備などを検討している。

【就職指導】
就職指導委員長を筆頭に就職指導課で近年の就職動向を見据え，学生からのアンケート結果を基に行事日程を作成している。また，支援行事案を就職指導委員会で承認した上で，教授会後に決裁を取り決定している（支援行事以外も同様)。また，学生の参加状況をみて次年度以降の検討を行っている。特に開催時期と内容を鑑みて令和６年度ではインターンシップと業界研究を統合した内容で講座を開催していたが，令和７年度では切り離し業界研究を全３回とし，インターンシップガイダンスは６月までに全５回のガイダンスを開催し，採用と直結するインターンシップ対応及び就職活動の早期化に対応をした。

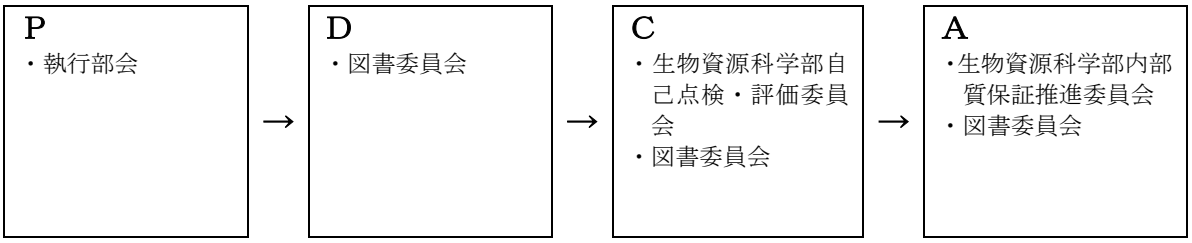
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

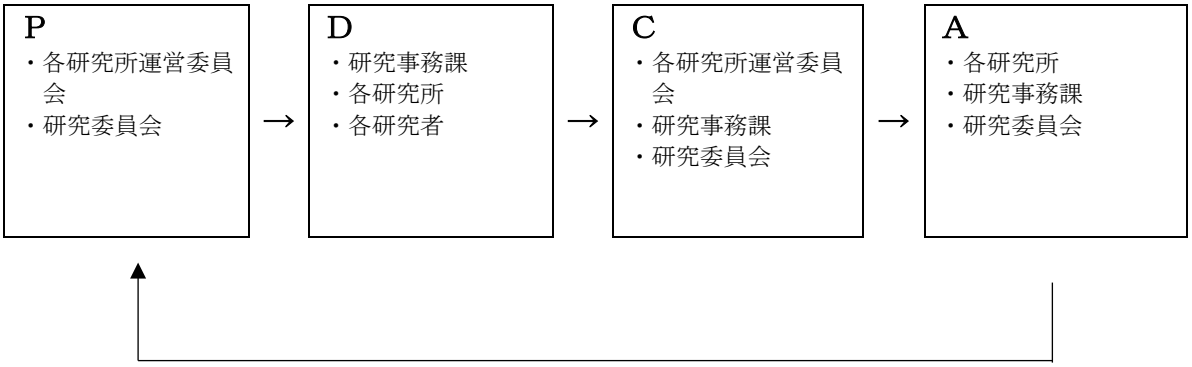
基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【図書館】



【研究事務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【図書館】

計画，実行については，執行部，図書委員会が中心となり，図書館利用促進，電子資料，図書の充実等を進めている。特に利用促進については，図書館ホームページに利用案内と動画「図書館ってどんなトコ！？」を掲載し，日本大学図書館生物資源科学部分館の魅力を周知している。ラーニングコモンズ，グループ学習室の利用者が増加している。また，閑散期においても，全学科学生が平均して利用している。その利用者数を月ごとに集計し，図書委員会で報告して評価している。図書の充実については，学科図書委員に最新の推薦本を紹介してもらい，所蔵本の改善を進めている。

【研究事務】

各研究所等では，学部研究委員会を中心として研究組織の適切性を検証するとともに，日々の業務については各研究所等の運営委員会で点検・検証に取り組んでいる。 各研究所等の運営委員会による点検・検証の結果を基に大型機器の購入，保守，点検及び修繕等の計画を検討している。総合研究所では，機器のニーズや点検結果等を基に，毎年大型機器の更新・導入に係るロードマップ（中期計画）を見直し，研究所運営委員会及び研究委員会の承認を得て予算化し，研究環境の改善を行っている。

学部独自の研究費については，その予算配分方法について研究委員会で検討し，各研究者に配分する。各研究者の実績報告や使用上の意見等を基に，研究事務課及び研究委員会で次年度に向けた改善案を検討・策定し，実行している。その他，外部資金の獲得や研究成果の公表等，研究委員会や各研究所運営委員会で企画したイベントに参加した研究者の意見を，各研究所や研究委員会及び研究事務課で検討し，次年度の実施案に反映している。

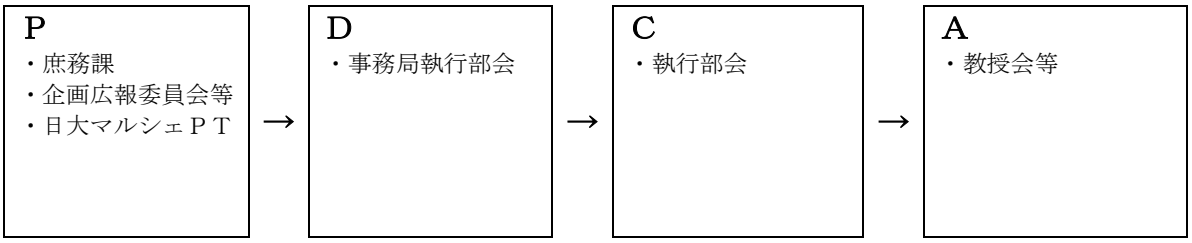
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

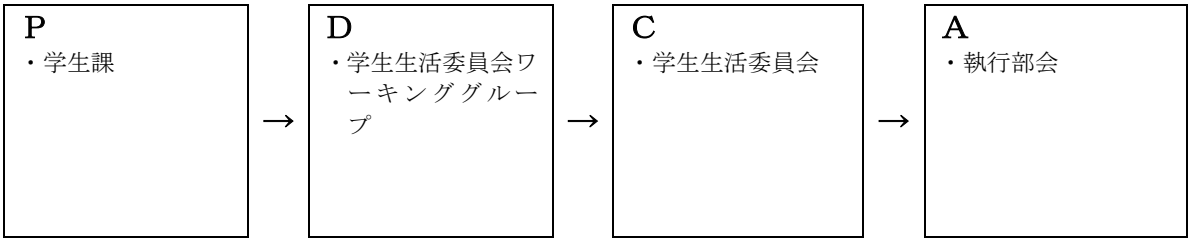
基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

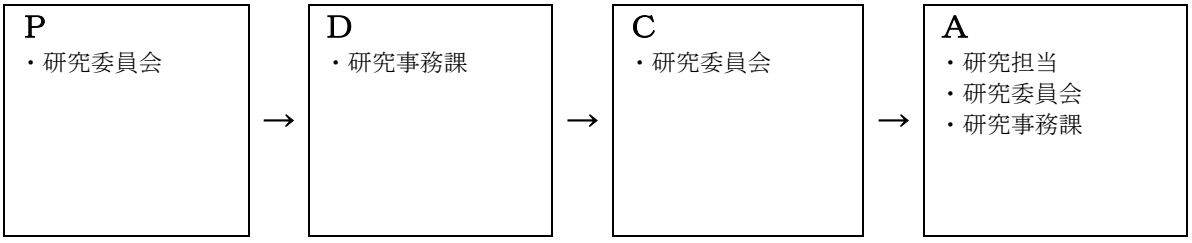
【庶務】



【学生】



【研究事務】





2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【庶務】
社会連携・社会貢献に関わる事項としては，日大マルシェＰＴ，庶務課及び企画広報委員会等で立案した企画について事務局執行部等が点検・評価をしている。事例としては，学部特産品の販売や研究室協力型のワークショップを兼ねた日大マルシェの実施等が挙げられる。今後は，各種委員会等で企画された内容を生物資源科学部内部質保証推進委員会でも共有し，学部全体として連携しながら取り組むことで，より高い相乗効果が期待できる組織作りを目指す。

【学生】
行政等からの依頼に対し，学生団体（学部祭実行委員会，学生団体連盟など）から地域貢献（ボランティア活動）の一環として，学生派遣を行っている。ただし，点検・評価（検討・検証）の実施はしていない。

【研究事務】
社会連携・社会貢献については，研究委員会を中心に社会連携・社会貢献の度合い等を検証している。毎年，藤沢市と連携し市民講座を開講しているが，受講者のアンケートを参考に，市民のニーズに応えるとともに，また一般市民や中高生に大学の研究成果を分かりやすく発表できるよう検討している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし